マタイの福音書　第５章　９節

「平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるから。」

戦火に襲われる人々、崩れた住まい、建物、街々の通りが毎日放映される。見る度に心が打ちひしがれる。遠くで見る者の胸さえ痛くなり、ため息が止まず、嘆きが終わらない。現場の人々の心は想像し難い。画面から涙が見え、嘆き叫びが聞こえてくる。その声を蹴散らすかのように爆薬が閃光と黒煙を噴き上げる。

隣国で見守る人は、戦禍にある国名を口にするだけで涙が溢れる。言葉にならないほど、悲しみを抱き、本当のこころを押し殺さなければならない異常さに呻く。侵略する国の子等はその国のなかで歌い、何かを祝っている。隣国では同年代の子等が行くあても無く祖国を追いやられている。身動きできなくなり、水、食べ物、暖を奪われ地下に籠る。傷ついた子等は抱きかかえられ、野戦病院のようなところに駆けこんでいる。片方は歌い、他方は命の灯が消えそうで怯える。

これみな大の大人がもたらしている惨状だ。我が子、我が家、我が街、我が国を愛する大人たちの行動だ。この惨状に目と耳と心が塞がれている。塞いでいるのも大の大人である。それもリーダーとして尊敬されるべき者たちの狂気に満ちた言動から噴き出す惨状だ。

2022 年 3 月 19 日